

## 「非位置移動動詞+“过来”」の意味分析について

— “坐过来”と“走过来”の比較を中心に—

The Semantic Analysis of "Non-position Moving Verb" + "Guo Lai "

Comparison of "Zuo Guo Lai " and "Zou Guo Lai "

蘇 秋韻

SU Qiuyun

要旨：在趋向动词“过”的研究中，针对“位置移动动词+过来”（如“走过来”、“跑过来”等）语法结构展开的研究颇多，而对于“非位置移动动词+过来”（如“坐过来”、“站过来”等）的研究却屈指可数。例如杉村博文（2012、2015）中，把“坐过来”这种语法结构命名为“终端凸显式”，把“站、坐、跪、蹲、躺、趴、靠、睡”这类动词叫做“姿势动词”，并表示在汉语中这类非移动动词常因为文脉等关系而被临时充作移动动词使用。纵观各项研究，对“坐过来”这种结构产生的原因并没有一个明确的解释说明。同时，笔者在调查中发现非位置移动动词，除了“坐过来”的例子外，“推过来”、“吸引过来”这类的例子也并不少见。本文此次以“坐过来”、“走过来”为研究比较对象，从语义及语用方面展开分析。

キーワード： 非位置移動 図と地 着点の有様 “坐过来” “走过来”

### 目次

- 0. はじめに
  - 1. 先行研究
  - 2. “走过来”と“坐过来”の違いについての仮説
  - 3. 空間的移動を表す“V+过来”の全体像
  - 4. おわりに
- 言語資料  
参考文献

### 0. はじめに

杉村博文(2012)は“站、坐、跪、蹲、躺、趴、靠、睡”を姿勢動詞と名付ける。連語構造“坐过来”については、杉村博文(2015)において“终端凸显式”と命名し、「中国語では非移動動詞が文脈義や常識的知識を取り込み臨時に移動動詞化することがよくある(杉村博文2012)」と指摘する。しかし“坐过来”、“走过来”のようなケースのほか“推过来”、“吸引过来”

など、主に“把字句”に用いられる連語構造もある。本稿は“坐过来”、“走过来”を対象に、意味、語用論的な違いについて分析を行う。

## 1. 先行研究

従来の動詞“过”の基本義・プロトタイプについての結論は一致しておらず、大きく二つに分けることができる。すなわち、

- i. ある場所から別の場所への移行
- ii. ある場所からの経過

である。

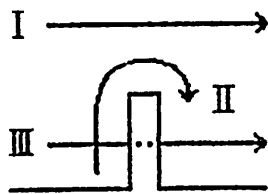
朴鐘漢(2000:25)は“过”のプロトタイプの意味が「ある地点から何らかの空間を経由して別の地点への移動」であると指摘する。すなわち“过”の基本義は「移行」であるとす

る。一方、多くの研究では動詞“过”の基本義を「経過」とする。

吕叔湘<sup>①</sup>(1999:245)は、動詞“过”の意味を「(場所)を通り過ぎる」「時間が過ぎる、時間を過ごす」「(ある範囲や限度を)超過する」「(ある処理を)経過させる」の四つに分ける。

杉村博文(2000:58)は、動詞“过”に「甲:ある地点を通過する」と「乙:ある地点から別の地点へ移動する」との意味があると主張し、さらにその甲義を「図1」によって説明する。

図1 甲義:ある地点を通過する



I 例:天鹅能飞过世界上最高的珠穆朗玛峰。

II 例:大袋鼠能跳过三米高的栅栏。

III 例:月光从高高的天上射下来,穿过窗户,斜照在郑波的床头。

(杉村博文 2000:58 より)

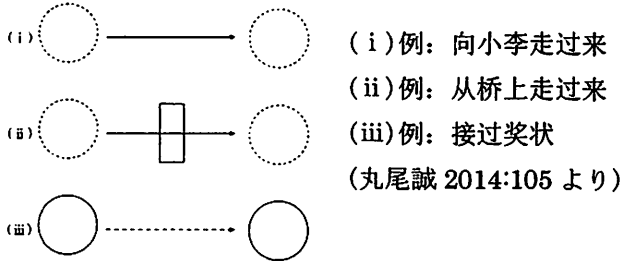
さらに、杉村博文(2000:58)では、前述の甲、乙両義を一つにまとめれば丙になると指摘する。丙を「X-Y-Z」とまとめて、X、Y、Z はそれぞれ起点、通過点、終点を意味し、「XからYを経てZへ移動する」と考える。もし「X-Y-Z」という空間移動において、起点と終点がかすみ、通過点が際立つと甲義となり、逆に移動の両端が際立ち、通過点がかすむと乙義となると考えれば、甲乙両義は同一事象「X-Y-Z」の異なる分節と考えることが可能だと指摘すると同時に、「“过”の二つの意味において乙義は劣勢であり、甲乙両義を一義(「ある地点を通過する」)に収斂させることができる」との指摘も行っている。

<sup>①</sup> 吕叔湘(1999:245)では、動詞“过”の意味について、次のように記述している。1. 经过(处所)。可带‘了、着、过’。可带处所宾语或施事宾语。2. 经过或度过(某段时间)。可带‘了、着、过’。可带名词宾语。3. 超过(某种范围或限度)。可带‘了’。可带名词宾语。4. 使经过(某种处理)。可带‘了、着、过’，可重叠。可带名词宾语。

高橋弥守彦(2005:92)は位置移動の動詞“过”の基本義を「過ぎる」としている。

丸尾誠(2014:105)は、動詞“过”の基本義を「通過」とし、移動を表す“过”を三つのケースに分けて、そのイメージスキーマは「図2」のように図式化する。

図2 “过”のイメージスキーマ



## 2. “走过来”と“坐过来”の違いについての仮説

本節では高橋弥守彦(2008:113)に基づき、「ありさま動詞」を「経路のありさま動詞」と「着点のありさま動詞」に分け、“走过来”と“坐过来”の違いについて、話者の視点が転換する「ルビンの盃」理論を援用しながら、合理的説明を試みる。

図3 ルビンの盃



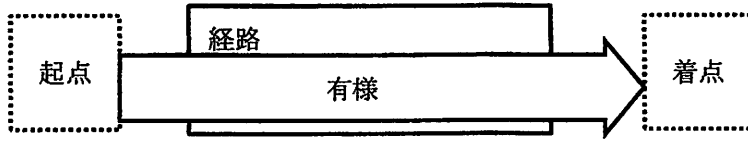
認知言語学の「図と地」の理論は、「知覚した対象に対して、図と地の役割が逆転すること、すなわち、図として捉えられていたものが背景になり、地として捉えられたものが前景になる」<sup>①</sup>と説明される。本稿ではこの理論を応用することで、“走过来”と“坐过来”の違いを明らかしようとするものである。話し手が「経路のありさま動詞」を用いる場合は、移動の「経路」の部分前景化しているのに対して、「着点のありさま動詞」を用いる場合は、移動の「着点」の部分前景としているものと考えられる。

## 3. 空間的移動を表す“V+过来”の全体像

「移動動詞」の“过”のスキーマは「図4」のようにまとめられる。“过”を用いられる連語構造は「経路」「有様」「視点」の情報を含み、「起点・着点」の情報は介詞連語、補語などの言語環境によって理解されると考えられる。

<sup>①</sup> 辻幸生 2013『新編認知言語学キーワード事典』参照。

図4 “过” のスキーマ<sup>①</sup>



“过” が用いられる空間移動を意味する連語構造は表1のように七類にまとめることができる。

表1 “过” に関する構造

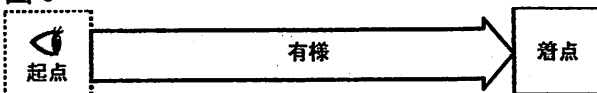
1	“过+N” <sup>②</sup>
2	“过+来/去”
3	“过+N+来/去”
4	“V+过”
5	“V+过+N”
6	“V+过+来/去”
7	“V+过+N+来/去”

空間的移動を表す連語構造の“V+过来”では、一般的に有様移動を表す“走、跳、飛、爬”などが“V”の位置にくる。例えば、

- (1) 那时, 秃鹤正沿着正对校门的那条路, 很有派头地走过来。(草房子)  
 そのときハゲツルは、ちょうど正面から校門に向かう道を、堂々とやってくるいた。(サンサン)
- (2) 太阳才一露脸, 天地间便弥漫开无形的热气, 而当太阳如金色的轮子, 轰隆隆滚动过来, 直滚到人的头顶上时, 天地间就仿佛变得火光闪闪了。(草房子)  
 太陽が顔をだすやいなや、あたりに形のない熱気が立ちこめる。そして、太陽が金色の車のように、ゴロゴロところがって、人の頭の上まで来たら、あたりはまるで日の光がきらめくようになる。(サンサン)
- (3) 秃鹤虽然已没有什么力气了, 但还是追了过去。(草房子)  
 ハゲツルは、もう大して元気はなかったが、やっぱり追いかけた。(サンサン)

① “他走去学校。”のように“V+来/去+N”の構造では、「経路」に関する情報は全く念頭になく、「起点・着点」「視点」「有様」に関する情報のみ伝えていると考えられる。

図5



② Nは名詞 (noun) の略称。

(4) “请你稍等一下。”陆文婷向病人打了招呼，跑过去拿起听筒。(人到中年 30)

「ちょっとお待ちになって下さいね」陸文婷は患者に断わって、小走りに電話口へ急ぎ、受話器を取り上げた。(「人、中年に到るや」56)

連語構造の“V”は“走”“滚动”“追”“跑”であり、いずれも移動の有様を表している。一方、Vが“拿、推”など主体の手元の動作を表す場合もある。

(5) 护士把手术床旁的托盘架推过来。(人到中年 58)

看護婦が手術台の傍の消毒盤台を押してきた。(「人、中年に到るや」110)

上掲の例(1)から(5)では“V”の特徴こそ異なるが、いずれも移動の「経路」にいる動作主の呈した何等かの有様であると言えよう。

連語構造における“V”が「経路」上の動作主の動作・行為(有様)の前提・原因となるケースもある。例えば例(6)(7)の“吸引”“叫”がそうである。

(6) 这一嗓子把病人和大夫的目光都吸引了过去。(人到中年 28)

その氣勢に吸い寄せられたように、患者も医師も一斉に声の方を見上げた。(「人、中年に到るや」51)

(7) 张老汉似乎才把心放下，又叫过孙子来，摸着他胳膊上的布书包，对孙逸民说：“给，几个鸡蛋，您能进去，您给她带进去！”(人到中年 78)

張じいさんはようやく安心した様子で、息子<sup>①</sup>を傍に呼ぶと彼の腕にかけていた布の手提げ袋を探った。「卵をほんの二つ三つじゃが、孫先生は中へ入れるで、わしに代わって差し上げて下さい」(「人、中年に到るや」147)

“V”が空間的移動の出来事の結果を表す場合も少数ながらある。

(8) 觉慧笑了笑，便把花枝拿开，放在右边的石凳上，又指着左边的石凳说：“来，坐过来，你为什么不敢接近我？”(家)

觉慧は笑って梅の花を右手の石の腰かけに移し、左手の石の腰かけをさして「ここへ来てお坐りよ、なぜそばへ来ないの」(家)

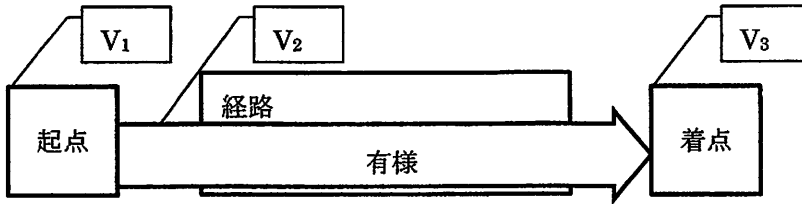
杉村博文(2012、2015)を踏まえ、イメージスキーマを次の「図6」のようにまとめる。

最も典型的な“V+过来”の例“走过来”では「経路」上の移動の有様を表している。“推过来”では「経路」上にいる主体の手元の動きを表す。この二類は移動の途中に呈している状態で、本稿では「V<sub>2</sub>」で表す。“吸引过来”の“吸引”は移動の前提・原因であり、「V<sub>1</sub>」

① 原文の“孙子”は「孫」の意であり、「息子」は誤りである。

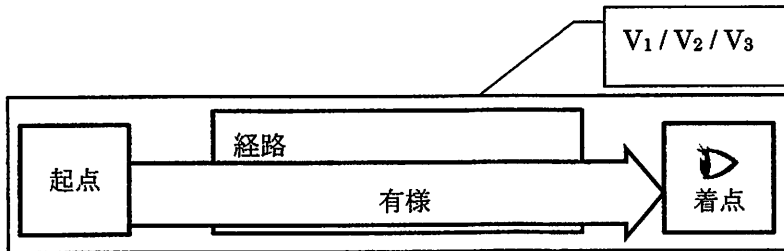
で表す。“坐过来”タイプの“坐”などは着点で起きた一連の動作の結果状態であり、「V<sub>3</sub>」で表す。

図6 “V+过来”の“V”



したがって、空間的移動の連語“V+过来”は、図7のように、話し手は誰かがある場所を越えて、自分の方に近づいてくること、そしてその空間的移動の前提・原因(V<sub>1</sub>)有様(V<sub>2</sub>)結果状態(V<sub>3</sub>)のいずれかを着点の方向から観察し、描写しているのである。(“V+过去”では自分側から何かが何らかの原因・様子で遠ざかっていることを表している。)

図7 空間的移動を表す連語“V+过来”

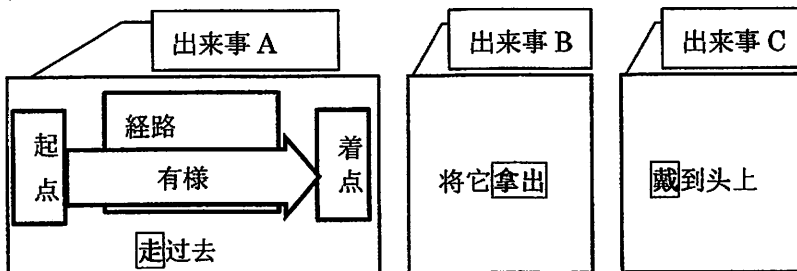


つまり、空間的移動に関わる一連の動作・状態の「V<sub>1</sub>/V<sub>2</sub>/V<sub>3</sub>」は“V+过来”の“V”にくることが可能であるが、空間的移動の出来事の有様ではない、もしくは移動の原因、結果ではない動作・状態が“V”にくると、非文となる。例えば“走过去，坐下(作例)”は“坐过去”に書き換えられるが、次の例では“拿过去”、“戴过去”に書き換えることができない。

(9) 自己一笑，走过去，将它拿出，也戴到了水淋淋的头上。(草房子)

ふっと独りで笑い、近づいて、手に取り、汗びっしょの頭にかぶった。(サンサン)

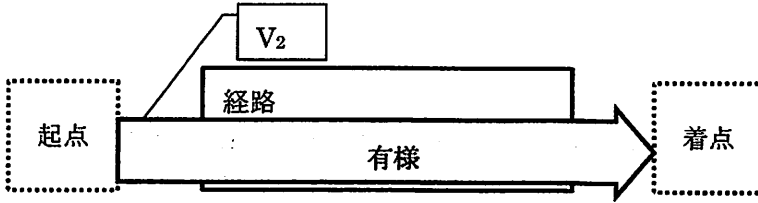
図8 非文になる“V+过来”



### 3. “走过来”と“坐过来”

“走过来”における“走”「経路の有様動詞」を用いる場合について述べる。このような場合、「経路」は前景化されるので、網掛けで表現する。

図9 “走+过来”

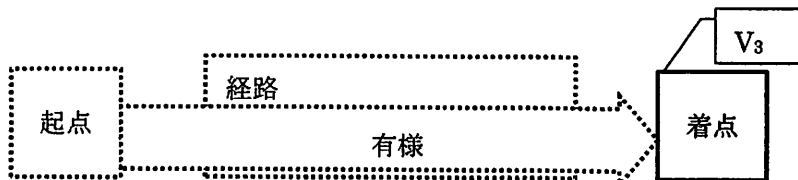


- (10) 暖暖背着儿子正摇晃着走, 忽见前边有两个人抬了个小竹床走过来, 就问: 谁呀?  
(BCC 周大新/湖光山色)
- (11) 摄影员小李兴奋异常, 用摄影记者才有的那种敏捷步伐跑过来! (BCC 魏巍/东方)
- (12) 忽地我有了主意: 我拿起这只一次成像相机对着那小姑娘扬了扬, 她立时领会了, 摆出一副时装模特儿的姿势, 突起臀部, 抬着胸部, 嫣然一笑。闪光灯一亮, 她就跳过来咯咯地笑着, 等相片显出。(BCC 谭恩美/喜福会)
- (13) 然后他把马拴在那里, 自己爬过来。(BCC 卡尔·麦/藏金潭夺宝)
- (14) 当看到她十分缓慢地向海边游过来, 我才松了一口气, 原来她没有遇到危险。(BCC 法格海/一个女人照亮的隧道)

上掲の例(10)から(14)は話し手が「経路の有様」を強調して表現しており、起点や着点の様子について一切触れず、問題にしていない。

“坐过来”など「着点の有様動詞」が用いられる場合を「図10」によって説明してみる。「着点」の部分に網掛けを施し、「前景」を表す。

図10 “坐+过来”



- (15) 彭其坐下了。“摔了哪条腿？”许淑宜阿。“这一条。”彭其抚摩着左腿膝盖说。“好了吗？”“好了，完全好了。”“卷起裤腿给我看看。”彭其顺从着妻子，将裤腿提上来，卷到膝盖以上。“你坐过来一点。”许淑宜提出。彭其又将自己的椅子挪了挪。  
(BCC 莫应丰/将军吟)
- (16) 白莲花静静地坐着，忽然微微一笑。笑了之后，抽出肋下掖的手绢，结了一个大疙

瘩，坐了拿着，向右手掌心里打，低了头，可不作声。燕西笑道：“来，坐过来，我有话和你说。”白莲花笑道：“我们离得路也不远，有话可以说，何必还要坐到一处来说？”燕西笑道：“我的中气不足，坐到一处，声音可以小一点，省力多了。”白莲花笑道：“坐过来就坐过来，我还怕你吃了我不成？”说时，便坐到燕西一处来，牵过燕西一只手，将手绢疙瘩在他手心里打。（BCC 张恨水/金粉世家）

(17) 车上，鲍勃抽烟，乞罗基让他扔掉，他扔了；又让他扔掉烟盒，他很不愿意，但还是扔了。他说，我喜欢你，不然，谁也别想让我做我不乐意的事情。乞罗基问，你确定妈妈亲吻那张照片不？我亲眼看见，假不了。乞罗基极其高兴，答应明天给他买一把柄上镶银的来复枪。他让鲍勃靠自己紧点，冷不冷？坐过来点，我的儿子！……（BCC 欧·亨利/圣诞奇遇）

(18) 鸣凤走过来，坐在他对面的一个石凳上。桌上的花枝隔在他们中间。觉慧笑了笑，便把花枝拿开，放在右边的石凳上，又指着左边的石凳说：“来，坐过来，你为什么不敢接近我？”鸣凤默默地走过来，坐下了。（BCC 巴金/家）

上掲の“坐过来”の例では、話し手が「着点の有様」に目を向け発話している。実例を調べたところ、「経路」については言及しておらず、「起点」の部分の様子について描写するものが多数を占める。重要な点は、「着点」が「起点」と同じ状態であり、“坐”という立ち居の有様であることである。杉村(2012)も指摘するように、“坐过来”のほかにも“站、跪、躺”の例もある。

(19) 春华刚是在佛面前站定，智香就站过来敲磬。（BCC 张恨水/北雁南飞）

(20) 「妇女都站到西边去！青年队站到这边来，挨着小学生站着！大家站好了不要乱动！孩子该溺尿的先带出去溺了尿，待会儿不许出去！喂，你们墙跟前的都站过来些，远了听不见！」（BCC 张爱玲/赤地之恋）

(21) 杏胡是不亲自劳动的，她陪着司机还坐在驾驶室说话，我和种猪从车上往下卸，黄八、五富负责搬运，我感觉黄八、五富就是骡子马，站过来低着头，我和种猪把水泥袋往他们肩背上一放，他们就小跑着走了。（BCC 贾平凹/高兴）

(22) “我要抗议！即使我没有制止学生胡闹，你们也不能这样粗暴地对付自己人……”  
“住口！给我站过去。”余新江的手朝牢房深处指了指。（CCL 罗广斌/红岩）

(23) “你这是对受伤同志的态度？”  
“站过去！”（CCL 罗广斌/红岩）

(24) 齐金蝉则叫老鸨子跪过来，元宝就要往她头上放去，……（BCC 李凉/新蜀山剑侠传 1996）

(25) 你从来不敢放肆，今日忽然大胆起来，这个初犯断饶不得，好好跪过来领打！”说了这几句，就揪住穆子大的耳朵，要用起家法来。（BCC 连城璧 集藏小说）

(26) 只见王琬与长孙安世跪过来，再三哀求道：“东都危在旦夕，倘大王远驾关中，秦王兵不回奈何！还求大王速发。”眼泪都哭将下来。（BCC 隋史遗文 集藏演义）



- (27) 崔贤已是跪得久了，看着打门子，是为他的缘故，好生没趣，只得跪过去。(BCC 二刻醒世恒言 集藏小说)
- (28) 守门军就放下篮来，把文书吊上去。又晓得是徐典史，慌忙拿这文书径到府里来。正值知府温章坐衙，就跪过去呈上文书。温知府拆开文书看见印信、图书都是真的，并不疑忌。就与递文书军说：“先放徐典史进来，兵快人等且住着在城外。”(BCC 初刻拍案惊奇 集藏话本)
- (29) 忽然她冷冰冰他说：“喂！你知道自己在干什么吗？”我说当然知道。能不能劳你大驾躺过来一点？我要就着亮儿研究一下你的结构。(BCC 王小波/黄金时代)

上記の例文は「着点の有様」に目を向け描写するが、“坐过来”と異なる点がある。これらの例では「起点」に触れていないか、あるいは「着点」と「起点」の状態とが異なるかどうか、である。

#### 4. おわりに

聞き手とテーブルをはさんで、相手を自分の横に腰かけるよう誘う場面において、現代中国語には“坐过来”と“过来坐”の二つの表現形式がある。

杉村博文(2012、2015)では両者はほとんど同じ出来事を表していると指摘するが、本稿では“坐过来”は空間的移動に関わる一連の動き・状態を“坐”という結果状態でまとめ、「起点」と「着点」における姿勢の様態が一致することを、空間的移動の有様(全体像)として表しているのに対し、“过来坐”は連動文“过来+坐”であり、“过来”(空間移動の動作)と“坐”(立ち居の動作)を時系列で結び付けて表していることから、前者“坐过来”は出来事の全般をまとめることで場面描写の陳述文として、また命令文にも用いられるのに対し、後者“过来坐”は命令文にのみ用いられることを指摘する。この点において、両者には根本的な違いがあると考えられる。主要な相違点をまとめたのが下記「図2」、「図3」である。

“坐过来”を始めとする「着点ありさま動詞」のカテゴリーが認められるためには、合理的な理由が無くてはならない。“过”に「着点」を表す「到達着」があるとの推測が成り立つが、論証は次の課題としたい。

表2 “走过来”と“坐过来”の違い

	姿勢	焦点	動詞の働き	移動の距離 (相手との距離)
走过来	維持	経路	経路のありさま	長い(遠い)
坐过来	起動 解除 回復	着点	着点のありさま	短い(近い)

表3 “坐过来”と“过来坐”の違い

	形式	構造	(一)点 <sup>①</sup>	用法	移動距離
坐过来	V+过来	動補構造	坐过来(一) 点	命令・陳述	短い
过来坐	V <sub>1</sub> +V <sub>2</sub>	連動文	—	命令	長い

### 言語資料

1. 《草房子》曹文軒著 1997 江苏少年儿童出版社  
『サンサン』中由美子 2002 加藤文明社
2. 《人到中年》谌容著 1981 《1977-1980 全国获奖中篇小说集(上)》上海文艺出版社  
『人、中年に到るや』林芳訳 1984年12月 中公文庫:7-167
3. 『中日対訳コーパス(第一版)』北京日本研究センター2003  
中国語原文            日本語訳文  
《家》                『家』
4. CCL: 北京大学中国言語学研究センター(“北京大学中国語言学研究中心”)  
[http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl\\_corpus/](http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/)
5. BCC: 語言資源高精尖创新中心  
<http://bcc.blcu.edu.cn/>

### 参考文献

#### 日本語

- 相原 茂 2015 『中国語類義語辞典』東京:朝日出版社
- 荒川清秀 2003 『一步すすんだ中国語文法』東京:大修館書店
- 今井むつみ 2016 『学びとは何か—〈探求人〉になるために』東京:岩波書店 18-21  
『広辞苑(第三版)』1983 東京:岩波書店 1281
- 大堀壽夫 2002 『認知言語学』東京:東京大学出版会 18-21
- 下地早智子 1998 「方向補語と目的語の語順について」『人文学報』No.292 飯倉証平先生記念論文集  
35-48
- 杉村博文 1991 「「買って帰る」と「買い戻す」」『中国語学習 Q&A101』東京:大修館書店 107-109  
———1992 「現代中国語における「むこう」と「こちら」の諸相」『日本語と中国語の対照研究論文集』153-180  
———2000 「方向補語“过”の意味」『中国語』No.480 58-60  
———2011 「対立空間転位の諸相—「方向補語」再考」『現代中国語研究』第13期 15-30

<sup>①</sup> “(一)点”以外にも“(一)些”、“一下”などの数量詞を添える例が見られるが、ここでは“(一)点”によって示すこととする。

- 2012 「中国語における姿勢形成と空間移動—終端プロファイルによる系列動作の視点より」  
『日中理論言語学の新展望 2 意味と構文』東京:くろしお出版 125-143
- 鈴木康之 2011 『現代日本語の連語論』日本語文法研究会 28-32
- 瀬戸賢一 1995a 『空間のレトリック』東京:海鳴社
- 1995b 『メタファー思考—意味と認識のしくみ』東京:講談社
- 蘇秋韵 2018a 「補語“过”と「完結義」の関係について」『外国語学会誌』第 47 号大東文化大学外国語学部 26-35
- 2018b 「「位置変化」と「方向変化」に関する“过”について」『中国言語文化学研究』第 7 号 74-87
- 2019a 「現代中国語における“过”について—“V+过+来/去”と“V+来/去”の対照から」『中国言語文化学研究』第 8 号 147-155
- 2019b 「非物理的空間における“V+过来/过去”の非対称性について」『研究会報告』第 44 号 134-142
- 2019c 「動詞“过”の基本義と語義分析について」『外国語学研究』第 20 号 33-38
- 高橋弥守彦 2004 「『動詞+“过”+空間名詞』の中の“过”について」『日中対照研究論集』第 6 号 17-33
- 2005 「位置移動の動詞“过”について」『大東文化大学語学研究所創立 20 周年記念現代中国語文法研究論集』大東文化大学語学研究所 59-100
- 2006a 「連語論からみる『“过”+空間名詞』の“过”について」《汉日对比语言研究》第 7 集 北京出版社
- 2006b 「位置移動の動詞“过”とその連語とについて」『中国語の補語』東京:白帝社
- 2006c 『実用詳解中国語文法』東京:郁文堂
- 2008 「“过”と客体との関係について」『大東文化大学外国語学部創設三十五周年記念論文集』大東文化大学外国語学部 113-134
- 辻 幸夫 2013 『新編認知言語学キーワード事典』東京:研究社
- 張芑蕾 2011 「認知言語学的アプローチによる日中移動動詞の対照研究—事態把握から見た「来る」と“来”」『現代中国語研究』第 13 期 111-119
- 陳瑩 2017 「方向補語“过”を伴う移動表現について」、『高橋弥守彦先生古希記念論文集』日本語文法研究会 79-88
- 中根綾子 2008 「移動事態を表す V x 句と V 到句の意味と形式」『中国語学』157-176
- 日本語文法学会 2014 『日本語文法事典』大修館書店 434-443,472-476
- 丸尾 誠 2005 『現代中国語の空間移動表現に関する研究』東京:白帝社
- 2006 「“过”の表す移動義について」『現代中国語研究』第 8 期 40-51
- 2011 「中国語の方向補語について—日本人学習者にとって分かりにくい点」『言語文化論集』32(2) 77-89
- 2014 『現代中国語方向補語の研究』東京:白帝社 105-123
- 森田良行 1977 『基礎日本語1—意味と使い方』東京:角川書店 198-200,236-240,487-490
- 1983 『日本語の表現』東京:創林社

- 1988a 『日本語をみがく小辞典—動詞篇』東京:講談社 47-49,152-155
- 1988b 『日本語の類意表現』東京:創拓社 369-372
- 1994 『動詞の意味論的文法研究』東京:明治書院
- 1998 『日本人の発想、日本語の表現—「私」の立場がことばを決める』東京:中央公論社225-234
- 2006a 『日本語の類意表現辞書』東京:東京堂出版 254-256
- 2006b 『話者の視点がつくる日本語』東京:ひつじ書房 129-133,189-233
- 2008 『動詞・形容詞・副詞の事典』東京:東京堂出版

朴鐘漢著 遠藤雅裕訳 2000 「認知文法による現代中国語多義語の研究」、『中央大学論集』第21号、中央大学 22-30

朴貞姫 崔健 2004 「空間経路表現の日中対照」『日中対照研究論集』第6号 108-119

呂叔湘主編 牛島徳次監訳・菱沼透訳 1992 『中国語用例辞典』東京:東方書店

盧澍 2000 『中国語における「空間動詞」の文法化研究—日本語と英語との関連で』東京:白帝社

渡辺昭太 2017 「経験認知と動詞接尾辞“V 过”の機能—日本語との対照も兼ねて」『現代中国語研究』第19期 83-98

## 中国語

白关雪 2012 <“过”+趋向补语>《现代语文:下旬.语言研究》第7期 50-52

蔡富有 1986 《现代汉语词林》福建人民出版社

曹先擢 苏培成主編 1999 《汉字形义辨析字典》北京大学出版社

方迪 2018 <现代汉语动趋式的显赫性及扩张效应>《世界汉语教学》第32卷第2期 229-240

高橋弥守彦 2007 <关于“过”与空间词的关系>《第八届国际汉语教学讨论会论文选》高等教育出版社

郭锐 2002 《现代汉语词类研究》、商务印书馆

郭晓麟 2013 <简单共现趋向结构与远距离认知位移事件>《汉语学习》第4期 73-79

洪心衡 1985 《汉语知识讲话 能愿动词 趋向动词 判断词》(第1版)上海教育出版社 2-56

胡裕树 范晓 1995 《动词研究》248-263

李淳 2016 <论语言表达的空间视角>《四川大学学报》第206期 153-160

李临定 1991 《现代汉语动词》140-150

李燕 2012 《现代汉语趋向补语范畴研究》南开大学出版社

刘月华 潘文娉 故鞅 2001 《实用现代汉语语法(增订本)》商务印书馆

——2019 《实用现代汉语语法(第三版)》商务印书馆

刘月华主編 1998 《趋向补语通释》北京语言文化大学出版社

鲁川主編 1994 《动词大词典》中国物资出版社

吕冀平 2000 《汉语语法基础》商务印书馆

吕叔湘主編 1999 《现代汉语八百词(增订本)》商务印书馆

马云霞 2008 《汉语路径动词的演变与位移事件的表达》中央民族大学出版社

齐沪扬主編 2007 《现代汉语》商务印书馆

杉村博文 2015 <论终端凸显示系列动作整合>《中国语文》第364期 18-27

- 王国栓 2005 《趋向问题研究》北京:华夏出版社 81,186-197
- 吴云 2004 <“过”引申用法的认知分析>《汕头大学学报:人文社会科学版》第 20 卷第三期 26-30
- 谢白羽 齐沪扬 2000 <复合趋向补语“过来”和“过去”的语义分析>《面临新世纪挑战的现代汉语语法研究》  
山东教育出版社 413-421
- 杨德峰 2017 《趋向补语的认知和习得研究》、北京大学出版
- 尹玉 1957 <趋向补语的起源>《中国语文》第 63 期 66-68
- 曾传祿 2009 <“过来”“过去”的用法及其认知解释>《西华师范大学学报》(哲学社会科学版)第 2 期
- 曾小红 2008 《语多个体动词的多角度研究——以“过+宾语”结构为例》厦门大学出版社
- 张寿康 苏培成主编 1992 《现代汉语实词搭配词典》商务印书馆
- 中国社会科学院语言研究所词典编辑室 2016 《现代汉语词典(第 7 版)》商务印书馆
- 周红 2018 <从驱动·路径图是看“V+过”的语义类别及其泛化>《对外汉语研究》第十七期 70-85
- 周红 鲍莹玲 2012 <复合趋向结构“V+过来/过去”的对称与不对称>《语言教学与研究》第 3 期 74-81
- 朱德熙 1982 《语法讲义》商务印书馆 57-58
- 朱京津 2017 <趋向补语“过来”“过去”的二语习得释义策略>《汉语学习》第 2 期 160-112